



# リレー・フォー・ライフ・ジャパンみやぎ 自主上映会

リレー・フォー・ライフ・ジャパンは、がんサバイバーを応援し、がんになっても安心して過ごせる地域社会を目指して活動しています。  
Dr.カキゾエが「がん」と「震災」に心を寄せて1,025kmを歩いた様子を記録したドキュメンタリー映画を宮城でみるチャンスです！



主催:リレー・フォー・ライフ・ジャパンみやぎ実行委員会  
協力:公益財団法人日本対がん協会、Dr.カキゾエ歩く処方箋 映画製作委員会

## 【事務局】

987-2308 宮城県栗原市一迫真坂字清水小館44  
Tel: 090-4880-1203 Email: miyagirireforraifu@gmail.com

リレー・フォー・ライフ・ジャパンみやぎ  
<https://relayforlife.jp/miyagi/>

開催日

2026

3/22

日曜

13:30～16:30

(開場13:00)

会場

せんだいメディアテーク  
7階 スタジオシアター  
宮城県仙台市青葉区春日町2-1

参加寄付金

一般 1500円

高校生以下 無料  
がんサバイバー 無料

皆様からお預かりしたご寄付は、  
日本対がん協会を通じて、がん征圧  
のための活動へ活かされます。

申込はこちらから  
お願いします →



プログラム

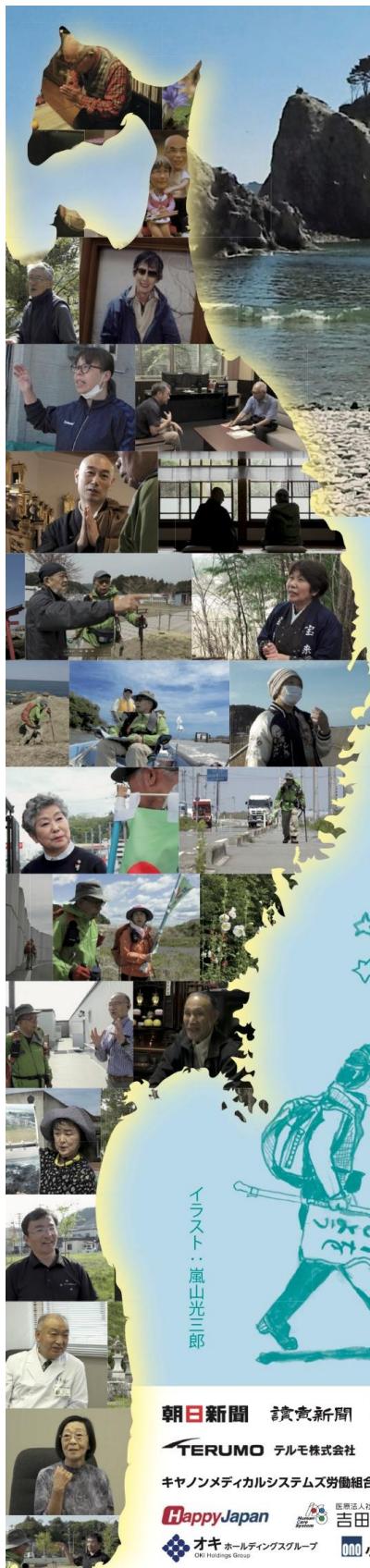
第1部

ドキュメンタリー映画鑑賞  
(120分)

第2部

Dr.カキゾエと話そう！

当日は、垣添忠生先生にお越しいただきます。がんのこと、震災のこと、みちのく潮風トレイルのこと、グリーフのこと、いろいろお話ししてみましょう。



歩くことで、がんサバイバーの支援と  
東日本大震災の被災者の心の傷に少し  
でも寄り添いたいという思いから、  
82歳になるドクターカキゾエは、歩く  
決意をしました。

雨が降っても、風が吹き荒れても、ひた  
すら歩き続けます。移り変わる美しい自  
然の風景とともに、歩くとさまざまな  
人々との出会いが生まれます。がんと共に  
に生きる女性、震災の悲しみをそれぞれ  
のやり方で乗り越えようとしている人々。  
ドクターカキゾエは、歩きながら思索  
を重ね、確信したことがあります。  
「がんでも、震災でも、人は逆境にたた  
されても、必ず復活する力を持つている。」  
復活する人の強さとは何か?  
映画は、静かにその答えを示唆してく  
れます。

## がんサバイバーと3.11被災者に出会う Dr.カキゾエ・82才の 1025km

奥様を亡くした消えない悲しみに抗うような、  
垣添先生のひたすらな歩みに心打たれました。  
被災者やガン患者、それぞれの痛みに寄り添う  
ことが、互いを癒し立ち上がる力になる。是非ご  
覧頂きたい映画です。 アナウンサー 山根基世

三陸海岸1000キロを完歩する82歳、垣添  
先生の歩みの力強さ温かさ。その姿に共鳴  
したがんサバイバー、震災被災者たちから  
語られる言葉に多くの人が励まされるに  
違いない。 フリーANAウンサー 笠井信輔



垣添忠生 Kakizoe Tadao

1941年大阪府生まれ。東京大学医学部卒業。国立がん研究セン  
ター病院に泌尿器科医として勤務。後に総長を務める。現在は、  
公益財団法人日本対がん協会会長。がんの診断、治療、予防に幅  
広く関わり全がんに目配りしている。著書「がんと人間」「妻を看  
取る日」「カキゾエ黄門漫遊記」他多数。

イラスト：嵐山光三郎



リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)みやぎは「あなたはひとりじゃない。がんになっても、  
自分らしく生きられる地域に」という理念のもと年に1度、夜通しのリレーエベントを開催して  
います。このたび2026年10月3~4日開催のRFLJ2026みやぎを盛り上げるべく、プレ  
イベントとして日本対がん協会会長 垣添忠生先生をお招きし「歩く処方箋」の上映を企画いたしました。

私たち東北の地は東日本大震災で数えきれない命の痛みを知りました。そして、がんもまた多くの命の痛みを生んでいます。命の痛みを抱えた者がふたたび歩き出すためには、  
その痛みを受けとめともに歩んでくれる存在が大きな力となります。この映画と垣添先生は  
そのような「ともに歩んでくれる」存在なのです。

RFLJみやぎ 実行委員長 高橋悦堂



サバイバーフラッグを掲げて歩く参加者の  
皆さんと垣添先生(RFLJみやぎ2025)